



no.8

いつかその日はやってくる

10月の初め、息子はコスモスに来てから3度目のお誕生会を迎えました。周知の通り、コスモス・ちい森のお誕生日会は素晴らしい、自慢のお誕生会です。心から生まれてきた子に感謝する日…。

第1回目のお誕生日会、息子はコスモスに来て4カ月を過ぎた頃でした。それまでに3～4回くらいはお友達のを経験していたものの、まだまだ状況を認識する力が十分ではなく、ただただ泣いていました。喜びのお誕生会というより、ハラハラしたものでした。

第2回目のお誕生会、息子は座っている事ができました。星の子の衣装を嫌がる事無く着ており、指導員に手を引かれて歌に合わせて歩いていました。

そして3回目、今年のお誕生日会、彼はちゃんと理解していました。一連の動きも、次に起こる事も…。歌を終えた後のロウソクを吹き消すタイミング…。わたしに「まだだよ！！」なんて言われなくても、ちゃんと待ってからできました。彼が「フーッ」と息を吹き消すと同時に、私の心の曇りも「フーッ」と消えていくようでした。

私はいまだ息子をたくさんの色メガネをかけて見ているのだと思い知らされました。解るはずがない…とか、解っている訳がないとか…言葉でのコミュニケーションが取りにくいことのせいにして彼の動作から、理解しているかどうかの判断を私が理解できていないのでした。彼は私が思っている以上に、ちゃんと理解している…、ちゃんとわかっているのです。私が彼を理解するのに、受けとめるのに、2年半もかかりました。

会が終わった後、室長に「ここまで成長させてくれて有難うございました。」と言ったら、「お母さん、昨年のお誕生日会でお母さんが何て言ったか覚えてますか？ちゃんと座っていた〇〇くんの様子を見て、…こんな日が来るとは思ってなかったって言ったんですよ。どんな子でも望めばその日はやってきます。そのいつか来る日をどういう風に迎えるのか、そこがとても大切なんですよ。」

彼の目に力がみなぎり、興味が広がり、手足も思いのままに強く動かせる。そんな日を夢見ていました。そしてその日を迎えるのに2年半かかりました。この2年半を短いとか長いとか、簡単に年数だけでは考えることはできません。家族・兄弟の関わり。コスモスの指導に納得がいかず、コスモスを休んでボイコットした時もありました。泣き・喜び・怒り、コスモスの先生方、保育園の先生方と私自身に関わることで多くのことも学びました。そのどれか一つでも欠けていたら、今のこの彼には出会えてなかっただろうと思います。その一つ一つが紙切れ一枚一枚を積み重ねるような気の遠くなるようなものだとしても、いつかやってくる子どもたちのその姿を思いながら、朝の療育から日常の関わりまで毎日続けているのだと思います。

話は戻りますが、お誕生会が終わった後、園長にお礼を言いたくてふと顔を見たら、涙…？がありました。「もう、担任がはじめっから泣いちゃってたから、もらい泣きしたのよ！！」と言っていました(笑)、その涙を有難く思いました。「こんなに立派に生まれて…(涙)…」と言葉に詰まる私に「何言ってるの、まだまだこれからでしょ！！」と励ましの喝。

我慢もできるようになってきたおむすこですが、まだまだ思い通りにいかないカンシャクをおこします。そのパワーたるや、日々闘いです。でも私は負けません。いつかやってくるその日を信じ、息子に伝えられる事全てをやりつくすまで。社会の一員として誇りを持って生きることのできる人間にしたいと私は思っています。

